

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 インターカルト日本語学校

1 事業の趣旨・目的

近年、国内における日本語教育の対象となる外国人は、留学生、研修生などのほかに、定住者や日本人の配偶者などの日常生活を送る上で必要な日本語を学習する者が増加している。平成21年度の文化庁「外国人に対する日本語教育の現状について」の調査によると、その学習者数は、170,858人となっており、過去最高となっている。教師数においてはボランティア等の数が15,753人(54.0%)と最も多くなっており、ボランティアが定住者や日本人の配偶者といった地域における日本語学習者への教授担当者を担っていると思われる。

そのような現状の中、東京都台東区に位置する当校は、いわゆる外国人集住地区ではないものの、区の全人口の7%近くを外国人が占め、特に小中学校等の公教育における外国人に対する日本語教育は決して十分ではないという現状が聞かれる。

当校で企画した講座では、地域の外国人児童が今置かれている状況を多角的な観点から認識し、適切な日本語指導および学習上のサポートをする人材を養成することが目的である。そのため、地域の日本語教室や学校現場で、即役に立つ必要な知識や技能を身につけるための講座を多く取り入れた。また受講生同士が、指導者としての状況や問題を共有することで、前向きに考え、今後の指導に役に立てた頂くことが趣旨であり、講座開設の目的でもある。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月6日	インターカルト日本語学校	石井恵理子 王慧瑾 穂坂晴子 谷口真理	講座の内容 講師の選定 行政との連携	・前年度の反省を踏まえ、行政にどうアプローチしていくか、協力体制作りについて ・講師に依頼する講座内容の確認
5月20日	多文化共生センター	王慧瑾 穂坂晴子	行政との連携 講座内容の確認と微調整	・台東区教育委員会訪問の打ち合わせ

	一東京	谷口真理		・台東区小学校・中学校に講座案内の方法 ・講師連絡等の状況報告
7月21日	インターカ ルト日本 語学校	石井恵理子 王慧槿 穂坂晴子 谷口真理	今後の行政との協力体制作 り 講座内容の最終確認 講師の依頼状況	・台東区教育委員会訪問 の報告 ・学校の反応 ・
1月28日	インターカ ルト日本 語学校	石井恵理子 王慧槿 穂坂晴子 谷口真理	講座終了後の報告 今後の取り組み	・受講生のアンケートを基 に講座の反省、受講生の 声、と今後の取り組みに ついて ・昨年度立ち上げて、井 戸端ネットの活用方法

【写真】



3 養成講座の内容について

- (1) 養成講座名 実践力を身につけるための日本語指導者養成講座
～学校・家庭・地域をつなぎ、子どもたちを支えるために～
- (2) 養成講座の目標
- ・地域の日本語教室や学校現場において、日本語指導者として必要な知識と技能を身につけ、即現場で活躍できる教師を育成する。
 - ・適切な日本語と学習の支援をするために、こどもたちが今置かれている状況を多角的な観点から認識する
 - ・地域で子どもたちに教える場合の教材や指導法を具体的にまなぶ。
 - ・子どもたちをささえるために学校とどう結び付けていくのか、地域からどうつないでいくのかをともに考え、学ぶ

- (3) 受講者の総数 33 人(出身・国籍別内訳 日本 32人、中国1人)
- (4) 開催時間数(回数) 3 時間 (11 回)
- (5) 参加対象者の要件 教員退職者、現教員、民間企業退職者、地域の年少者指導に興味のある方
- (6) 受講者の募集方法 ・チラシ作成 ・インターカルト日本語学校 HP 掲載
 ・台東区、墨田区、文京区教育委員会に協力依頼
 ・台東区小学校・中学校チラシ配布
 ・子どもメール ・前年度受講者に告知
 ・前年度に委託事業参加者で立ち上げた、メーリングリスト「井戸端ネット」で告知
- (7) 研修会場 インターカルト日本語学校
- (8) 使用した教材・リソース 担当講師の作成したプリント、パワーポイント
 講師紹介書籍、参考書、テキスト

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
10/2(土) 13:00～16:00	子どもが二つのことばに 出会うとき	元東京女子大学教授 西原鈴子	22名
10/9(土) 13:00～16:00	高校進学と日本語指導 の現状	NPO法人多文化共生 センター東京代表 王 慧槿	28名
10/16(土) 13:00～16:00	ダーリン<も>外国人 …移民受入前夜にあたり 市民にもとめられる力 とは	財団法人海外技術者研修 協会 AOTS 日本語教育 センター長 春原憲一郎	23名
10/23(土) 13:00～16:00	教え方実践編 子どもたちが楽しく日本 語を学ぶために	千葉県教育委員会委嘱 相談員 井上恵子	20名
10/30(土) 13:00～16:00	教え方実践編 教材と指導法の工夫 ～勉強嫌いな子どもでも 「こう」すれば～	波多野ファミリスクール 大蔵守久	24名

11/6(土) 13:00~16:00	在日外国人が感じた日本社会の多文化共生	立川市中国残留邦人支援 自立指導員・通訳 江夏馨 林佳盈	23名
11/13(土) 13:00~16:00	教え方実践編 子どもたちへのことばの支援を考える ～『こどもにほんご宝島』をヒントとして～	早稲田大学日本語教育 研究センター講師 尾関史	26名
11/20(土) 13:00~16:00	グローバリゼーション 私たちの隣の人びと・児童相談所	杉並児童相談所児童福祉司 田中良幸	24名
11/27(土) 13:00~16:00	地域に住む外国とつながる家族と共に暮らすために ～ある親子の事例から共に考え共に学ぶワークショップ～	ピナツボ復興むさしの ネット こども日本語・学習支援教室担当 出口雅子	25名
12/4(土) 13:00~16:00	講座を修了にあたりこれから何かできるか、何をやる必要があるかを考える 質疑、感想、交流など	インターカルト日本語学校代表 加藤早苗 武蔵野市教育委員会教育支援課 帰国・外国人相談室 日本語指導員 穂坂晴子	22名
1/22(土) 13:00~16:00	狭くなった世界との付き合い方 児童相談所から垣間見える隣に住む人々の問題	杉並児童相談所児童福祉司 田中良幸	16名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

当講座では、受講日ごとに当日のアンケートを実施し、感想の記入を依頼した。

また、講座終了後、全体を通しての感想と今後の課題についてもアンケートを行った。

その感想の一部を下記に転記した。

●子どもが2つのことばに出会う時

講師：西原鈴子

<感想>

- ・母語は保護されなければならないという言葉に頑張ろうという力をもらった。
- ・子どもの発達や日本の社会の現在の問題がどこにあるか学べた。
- ・発達段階の特徴が学べ、こういう領域の勉強はしたことがなかったので役立つ。
- ・今まで知らなかった知識や情報が学べ、今まで分かってなかった事で、納得したことも多くあった。
- ・2つの言語の間の問題がわかり、ダブルリミテッドの問題の深刻さを感じた。

●高校進学と日本語指導の現状

講師：王慧瑾

<感想>

- ・進学指導の現状がよくわかり、子どもたちへの理解と支援の姿に感動した。
- ・進学対策で、試験問題に目を通してなかった。小論の書き方など勉強になった。
- ・ぜひ、見学に行き、実際の現場を見たい。
- ・今の社会が抱えている問題が明確になり、私達がすべきことを考えた。
- ・進学できない子どもたちの実態がわかった。入試のテクニックも役立つ。
- ・現実には厳しいが「まだ間に合う」と希望がわいてきた。

●ダーリン<も>外国人…移民受入前夜にあたり市民にもとめられる力とは

講師：春原憲一郎

<感想>

- ・国語教育の歴史から地球を歩きまわった話まで広く面白く、強く印象に残った。
- ・引き込まれ、夢中で聞いた。またこういう講座で聞きたい。
- ・熱意と想いが伝わり、とても楽しく心に残った。
- ・頭・感性・身体を使い、体感的にも論理的にも学べた。
- ・教師はいつも好奇心と遊び心を忘れてはいけないと教わった。
- ・「文化の通訳者」という言葉が心に残った。文化のコーディネーター。
- ・おしゃべりの大切さを知った。もっと多くの教員仲間に聞かせたかった。又聞きたい。

●教え方実践 子どもたちが楽しく日本語を学ぶために

講師：井上恵子

<感想>

- ・沢山の資料・教材の準備に感謝したい。特にダウンロード資料は役立つ。
- ・発想や教材の豊富さに感動した。
- ・子どもが喜びそうな方法を学んだ。勉強嫌いな子供に活用したい。
- ・使えるヒントをたくさんもらった。
- ・現場の様子がよく伝わり、工夫次第で楽しく教えられることを知った。

● 教え方実践 教材と指導法の工夫～勉強嫌いな子どもでも「こう」すれば～

講師： 大蔵守久

<感想>

- ・具体的な教材工夫の仕方が分かり、とても面白かった。
- ・即実践できるものばかりで、役立てそうで勉強になった。
- ・教材と文法の結びつきが実感できた。作文のことも役立つ。
- ・アイデア豊富で、とても楽しく学べ、感動した。
- ・自らが楽しむ「手品師」にならなくてはと思った。
- ・困っていた文法の教え方が学べた。

● 在日外国人が感じた日本社会の多文化共生

講師： 江夏 馨 . 林 佳盈

<感想>

- ・講義形式と異なり、外国の方の生の声が聞け、大変有意義だった。講師の努力に裏打ちされた話に感動・圧倒された。沢山のことを知り反省した濃い中身で講師・主催者に感謝。
- ・ディスカッションの中で地域によるちがいを知った。草の根ボランティアが必要。
- ・外国人にとって、学校・行政・社会の在り方が遅れている実態が分かった。日本語ボランティアが声を上げていく必要がある。
- ・外国人からの視点、意見が分かり、共感・実感できた。貴重な話が聞けた。

● 教え方実践 子どもたちへのことばの支援を考える ～『こどもにほんご宝島』をヒントとして～

講師： 尾関 史

<感想>

- ・教材を使った支援法を具体的に知ることができた。事例のディスカッションも良かった。
- ・心の壁をどうクリアーしていくか悩んでいたのも、勉強になった。
- ・子どもの背景から考えることの多さを知った。
- ・日常会話と学習会話とのつながりがよくわかった。

・グループでの事例の話し合いの中で他の人の意見や事例が勉強になった。

●グローバルゼイション 私たちの隣の人びと・児童相談所

講師： 田中良幸

<感想>

- ・異言語・異文化について考える機会となった。
- ・支援を系統立てて、目的意識を持ってやることの大切さを学んだ。
- ・児童相談所での取組みを知った。外国人児童の問題の深刻化・拡大に驚く。
- ・矯正現場で働いているが、親と「日本人化する子ども」のソゴがある。
日本語教育の必要性を感じる。
- ・知る機会がないので興味深く聞き、問題の根底を知った。
- ・「支援のいらない支援の実現」が大切と心に残った。

●地域に住む外国とつながる家族と共に暮らすために

～ある親子の事例から 共に考え共に学ぶワークショップ～

講師： 出口雅子

<感想>

- ・家庭・学校・地域と大きい範囲で問題をとらえることは難しいが、解決していきたい。
- ・誰かが声を上げないと、と思った。動くことで何かが変わる。
- ・地域での活性化がまちを動かすことに繋がる。先進的取り組みに感じ入った。
- ・お母さんたちが繋がる場が必要だと思った。
- ・フィリピンボックスは面白かった。活用し、広げて行くことが大事。

●講座を修了にあたりこれから何かできるか、何をやる必要があるかを考える

講師： 加藤早苗 穂坂晴子

<感想>

- ・学習内容は濃かったが、最後に参加者のみなさんが地域でどんな活動をしているか
問題点は何か、などが分かって良かった。感動する発言がたくさんあった。
- ・こういう場が大切。来年もぜひやってほしい。
- ・今後もネットワークなどが作れば良いと思う。
- ・とてもバランスが良い企画だった。主催者に感謝したい。

<< 全体を通しての感想 >>

- ・いろいろな立場の先生から苦労話が聞け、自分の固定観念が砕かれとてもよかった。

- ・すべて充実していてバランスがとても良かった。すべての講座が心に残った。
高校進学と日本語指導の現状が特に印象的だった。
- ・参加者の意見も含めすべて心に残った。
- ・年少者の指導・支援の内容は多岐にわたっているので、それらを踏まえた講座で参加できて感謝している。
- ・子どもへの直接指導だけでなく、続け広げていくための行政への投げかけも必要。
- ・講座のスケジュールや講師交渉とても大変だったと思うが、素晴らしい講座・カリキュラムで、とても良かった。
- ・王先生、春原先生、田中先生の話がとても印象的、日本の現状とそれがどんなに大きいものかが、具体的にわかり心の中にぐんと入ってきた。自分も役立つよう頑張りたい。
- ・素晴らしい講師とさまざまな職種・状況の受講生と意見交換でき、多面的な考えを知った。
- ・グループディスカッションが新鮮で良かった。
- ・春原先生、大蔵先生の講座は即実践に活かせる内容が豊富だった。
- ・実際に日本語学を必要としている子供たちに関わっている様々な分野からの話が聞けた。
- ・各講座とも実践的で今後の活動に役立つ。
- ・日本語学校の講座でも聞けないような様々な角度からの内容が多く、役立つと思う。
これからの活動に自信が持てた。
- ・各講師の専門性が十分発揮できた内容で、ワークショップを通し頭も体もフルに使って学べ感謝している。今後、実践で活かしたい。
- ・さまざまな所で日本語指導を必要としている人、している人が分かった。今後どう仕事に関係つけていくかが課題。
- ・自分にとってとてもエキサイティングな講座で講師・受講生の熱意にも刺激を受けた。今後も連絡を取り合い教えてほしい。
- ・基本的なことを学びなおすいい機会。実際の指導現場を参観したい。現場教師の力不足を痛感。
- ・講師の現場改善する努力と熱意も知った。自分も現場に出たら学んだことを大切にしたい。
- ・さまざまな専門分野を持った方を講師とした講座だったので多面的に年少者の日本語指導の実態や課題をとらえることができた。
- ・現在、日本語養成講座で勉強中だが考えさせられ、非常に役立った。進路を決めて行く参考になった。
- ・小学校で日本語学級の担任となったがどう教えていいのか分からず参加した。母語指導についてももう少し聞きたかった。大蔵先生の話が直接役立った。他の講座もこれからの指導で役立つと思う。
- ・指導しながら日々悩める事や疑問に思っていることが共有できた。他の地域のことも知

りとても役だった。

- ・講座内容はもちろんだが支援に関わろうとしている人達のことにも実感でき、これを機に自分ももっと勉強し、子どもたちの未来が明るくなるよう活動したいと思った。
- ・今、勉強中だが講座や参加者の意見がとても勉強になった。このような貴重な場をぜひまた設けてほしい。
- ・非常に中身が濃く、休まざるを得ないときは残念でたまらなかった。春のほうが参加しやすい。夏にまとめてできないか。

②実施主体からの研修内容結果評価

思考錯誤しながらの組み立てた1回に続く、2回目の取り組みとなった。毎回提出を要請したアンケートでの感想と最終日に全体を通しての感想を報告書提出にあたり、整理していたが改めてこの企画の重みを実感した。無事に終了できたことを感謝するとともにこのような場が今後も設けられることを主催者側からも再度お願いしたいと思った。

受講者からの声は前述したが、年少者教育を実施する講座が少ない現状にも規定され、また、指導したいと希望してもなかなか学ぶ機会や情報を交換する場や悩みを共有する場がないこともあり、このような場を望む痛切な声が聞かれた。今回は、1回目の子どもたちの現状や指導現場での実態を知った上で具体的指導を学ぶことに力点を置いた講座内容に続き、子どもたちを支えるために地域、学校、家庭をどうつないでいくかに力点を置いた。

地域で子どもたちをどう支えて行くか、そのためにどう関係部署とつないでいくかは、年少者指導をしていくうえで、今まさに日々の課題として必要なことであり、その点を念頭に置き、専門的な分野の講師の方や地域でどう教えて行くかを具体的なワークショップ等で組んだ。実践に必要な理論と実践的な指導をバランスよく組んだ点は、僭越ながら受講者の方からの高い評価につながったのだと思う。また、多くの方が参加者それぞれの現場の話に感動していた。これは昨年最後の回に交流会を設け色々な地域、経験者が参加した中で多くの方が共感・感動した体験に踏まえ、ディスカッションの場も多くし、提起された悩みや問題を今後に向け共有化し、課題として論議できたことも良かったと思う。また、場、教材、人材がそろい豊富な地域での日本語学校主催の講座という点も生かし、昨年の実績に重ねられたと思う。

しかし、同時に受講者から感想などの中に出された多くの課題はまだ問題が見えてきたところである。今後も地域でのニーズを真剣に把握し、応えられる講座を組みたい。

② 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

受講者には講座開始の説明の時に毎回当日の講座の感想のアンケートの他に、「地域での取り組みと今後について」というタイトルでそれぞれの住んでいる地域や活動している地域

での実態(地域での外国人の児童数、ボランティア団体や活動の実態、公的機関の支援状態、今後どのような活動ができるか、なにを望むかなど)の参加者アンケートを配布し、最後に提出してもらい、その資料も参考に交流会論議を行った。また、前回メーリングリストを立ち上げ情報交換し、地域でのボランティア活動に参加している方たちもいる。

主催者として今回の講座でできたネットワークを活用し、活動拠点となるような態勢を考えていきたい。地域の日本語学校というメリットも活かし、定期的な研修や雑談・情報交換の場を作り、さらに広げていけたらと考えている。

昨年の実績で市からのボランティア講座への依頼、講座構築過程で連携した多文化共生センターを通じての東京都からの学校派遣依頼という事業にも貢献できるようになった。

地域の各機関と連携し、日本語学校から初期指導などの人材を派遣できるようになったら、素晴らしいと思う。また、実際には連携が出来ていない各自治体間の連携を埋めるべく、地域での日本語指導が必要な生徒の調査もできたら子どもたちを支える大きな1歩になると思う。

(11) 事業の成果

①他事業との連携

昨年に続き今回も「日本語導者養成講座」の他にインターカルト校主催で「親と子の日本語教室」、「ボランティアを対象にした実践的講座」も同時期にインターカルト校で実施した。また、昨年の「日本語教育振興協会」の大会でも研究発表として合同発表を行った。情報交換・人材交流を図りながら今後の充実化をめざしたい。

また、参加者は地域ですでにボランティア団体に属し、現場での活動を担っている方も多く、今後立ち上げようとしているところもある。大いに連携を図り、今後に繋げていきたい。

さらに、今回の講座で繋がりができた地域の教育委員会・学校・ボランティア団体などとの連携を強くし、広げていくために努力していきたい。

②研修後の人材活用

今回の講座の受講者の中にはすでに地域で活動している方や「日本語教師」として働いている方や「日本語教師」を目指している方も多数いた。年少者教育は学んでいる方は少なく、今回の講座受講後、年少者教育の場で活躍される方もいることと思う。今回は主に対象とした退職教師や学校現場の参加者も多かったが、実際に学校現場で研修などはほとんどないようで、感謝された。おそらく、今後の授業では今までと違った視点でいっそう充実した授業が出来ると思う。教員が呼びかけて参加した人たちがいたことから、さらに広がりが期待できると思う。

また、受講後すでに地域の現場に見学にいたりサポートに行ったりなど、受講者の具体的な行動も始まっている。情報交換しつつ、さらにもとに学べる場をつくり、地域で活動できる人材育成へと結びつけたい。

(12) 今後の課題

前年度講座実施とその後の取り組みの実績に踏まえ、今年度も地域での日本語学校主催の取り組みを開始した。今回は区報にも掲載ができず、当初なかなか集まらない状態で人脈をたどり、webの活用などにより予定より多い参加希望者が集まり、待機者がいる状態だった。今回は退職教員や現場の教員が多く、地域ですでにボランティア活動をしている方も多かったが、当該地域の参加者が少なかった。今後はもっと積極的に学校や教育委員会などにも足を運び、地域の現状を把握し、話を聞ける場作り、活動をしていきたい。

今回は前回のグループディスカッションや交流会が好評だったことも踏まえ、地域の課題やそれぞれの場でぶつかっていることなどを今後の課題として意見交換する時間を講座の後などに随時とったが、極めて現実的な活発な意見が出て時間が足りないくらいだった。お互いに、学ぶことがたくさんあった。参加者の情熱と悩みを身近に感じた。同時に日本語指導の置かれている現状の問題点が見えてきたこともある。また、いかにこのような学び情報交換する場が少なく、現場の指導を目指している方が望んでいるかということを感じた。解決にすぐ結びつかなくても、今回の実施の中でつくられたつながりや講座で学んだことを糧にさらに地域での諸団体などとの連携を図りつつ、日本語指導者養成という大きな課題をめざしたい。

昨年の講座終了時に希望者を中心に実践的な情報交換と語り合う場作りのために「井戸端ネット」というメーリングリストを作り、開始した。参加者の声にもあったように、終了後も学べる場がほしいという声をなんとか実現できないか考えている。実際、今回講師の好意もあり終了後も勉強会を同場所で開き、15人以上の方が参加し、とても好評だった。参加者が交代で地域のテーマを設け、学習の場を継続するという発想もある。幸い地域の日本語学校という環境の整った場もあり、地域の発信の拠点に出来ればと考えている。自治体による格差や日本語をめぐる教育委員会や関連機関の連携もなかなか現状ではとれていないと思う。来日する外国人が増えているが、地域で生活者として安心して生きるためのニーズにあう態勢は確立されていない。年少者の教育においてはいっそうで、課題は大きい。しかし、年の実績に踏まえた今年の歩みはさらに地域での歩みを進めたと思う。また、受講当該地域以外にも再び広くその種は蒔かれたと考えている。

その実現のためにも、今回の実績を振り返り、糧にして、連携を作り、子どもたちを支える態勢作りに進みたいと思う。今年度再び充実した学びの場である講座が出来ることを祈りつつ。